

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果

<今後のD滑走路周辺海域調査について> (案)

平成28年2月

国土交通省関東地方整備局

国土交通省東京航空局

目 次

1. 基本的な考え方	1
2. D滑走路周辺海域調査の検討	1
2.1 調査項目	1
2.2 調査地点・調査層	1
2.3 調査頻度	1
2.4 調査期間	1
2.5 調査結果の検証	1
3. 調査計画（案）	1

1. 基本的な考え方

「東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画（存在・供用時）（以下、「環境監視計画（存在・供用時）」という）」に基づき平成22年度秋季から平成27年度夏季まで東京国際空港周辺海域（以下、「周辺海域」という）、多摩川河口干潟及び暗環境を対象とした環境監視調査結果について、総合的な評価を実施してきた結果、周辺海域及び多摩川河口干潟においては、春季や夏季の赤潮の発生や貧酸素水塊の形成、多摩川の出水等の影響により一部の項目において一時的に大きな変化を示す場合はみられたものの、概ねこれまでの経時的な変動の範囲内の値を示しており、存在・供用時の調査期間をとおして著しい変化はみられなかったことから、平成27年度をもって「環境監視計画（存在・供用時）」に基づく監視調査は終了することとなった。

なお、「暗環境」において、増加傾向を示していた底質のCOD、T-N、硫化物は、平成26年度秋季以降、概ね同程度の値を示す状況とはなったものの、周辺海域に比べて高い値を示す傾向がみられている。また、付着生物についても春季から秋季にかけて脱落し、海底に堆積する現象が生じていると考えられる。そのため、対策の必要性を確認することを含め、今後の状況を注視していく必要から、環境監視計画（存在・供用時）と同様の調査を実施することとする。

また、これまでの調査からは「暗環境」による周辺海域への影響はほとんどみられなかったが、「暗環境」での調査に関連して環境監視計画（存在・供用時）に基づく「周辺海域」における調査地点のうちD滑走路（暗環境）周辺の地点を選定し、調査を実施することとする。

2. D滑走路周辺海域調査の検討

2.1 調査項目

「暗環境」の調査は、環境変化の程度の把握、対策の必要性について確認するため過年度調査からの継続性、過年度調査結果を踏まえた検証の実施等を考慮し、基本的な考え方のおり環境監視計画（存在・供用時）の調査と同じ水質、底質、付着生物に係る各項目の調査を実施する。

「周辺海域」の調査は、暗環境における環境変化の程度、周辺環境への影響の有無等を確認することを主な目的の一つとしていることから、「暗環境」と同様に水質、底質及び底生生物の調査を実施することとし、各調査における調査項目については過年度調査からの継続性、過年度調査結果を踏まえた検証の実施等を考慮して環境監視計画（存在・供用時）と同じ項目で実施することとする。

2.2 調査地点・調査層

「暗環境」の調査地点、調査層は、環境変化の程度の把握、対策の必要性について確認するため過年度調査からの継続性、過年度調査結果を踏まえた検証の実施等を考慮し、基本的な考え方のおり環境監視計画（存在・供用時）と同じ調査地点（St. d1、St. d2、St. d3）及び調査層で実施する。

「周辺海域」は、「暗環境」の環境変化の程度、周辺環境への影響の有無等を確認するための調査であり、過年度調査からの継続性、過年度調査結果を踏まえた検証の実施等を考慮して、調査地点は、環境監視計画（存在・供用時）に基づく調査地点のうち、「暗環境」との位置関係や周辺の状況等を考慮して6地点（St. 5、St. 10、St. 12、St. 15、St. 18、St. ①）を選定し、調査層は環境監視計画（存在・供用時）と同じ調査層とする。

2.3 調査頻度

「暗環境」の調査頻度は、環境変化の程度の把握、対策の必要性について確認するため過年度調査からの継続性、過年度調査結果を踏まえた検証の実施等を考慮し、基本的な考え方のおり環境監視計画（存在・供用時）の調査と同じ4回／年（四季）に実施する。

「周辺海域」は、「暗環境」の環境変化の程度、周辺環境への影響の有無等を確認するための調査であり、過

年度調査からの継続性、過年度調査結果を踏まえた検証の実施等を考慮して、調査頻度は環境監視計画（存在・供用時）と同じ、4回／年（四季）とする。

2.4 調査期間

調査期間は、気象状況の変化等を考慮して3年間（平成28年度～平成30年度）とする。

なお、調査結果について検証した結果、さらなる継続的調査が必要な場合には、改めて調査の内容、期間等について検討することとする。

2.5 調査結果の検証

調査結果の検証は、毎年（1年間）の調査結果について、水環境に関する専門家に意見を伺うことで実施する。

なお、毎年（1年間）の調査結果について検証した結果、明らかな変化がみられた場合には、調査内容の見直し（調査地点の追加など）を含めて検討することとする。

3. 調査計画（案）

「2. D滑走路周辺海域調査の検討」の結果より、調査項目、調査地点・調査層、調査頻度について整理した結果（D滑走路周辺海域調査の調査計画案）は、表3-1及び図3-1に示すとおりである。

表 3-1 D滑走路周辺海域調査の調査計画（案）

調査区分	調査項目	調査地点	調査層	調査頻度
周辺海域	【現地観測（機器観測）】 7項目（水温、塩分、透明度、pH、濁度、DO、クロロフィルa）	6地点（図3-1参照） （St. 5, St. 10, St. 12, St. 15, St. 18, St. ①）	鉛直測定 （表層から1m間隔で海底上1mまで） ※透明度を除く	4回/年 （四季）
	【現地観測（目視観察）】 水色、赤潮・青潮状況、油膜、気象・海象、底曳網操業状況、船舶航行状況等	※目視観察は、6地点及びその周辺海域の状況を把握	—	
	【室内分析】 11項目（pH、DO、COD、T-N、T-P、SS、VSS、クロロフィルa、塩分、n-ヘキサン抽出物質、全亜鉛）		3層 ・上層：海面下0.5m ・中層：海面下5m ・下層：海底上1m ※St. ①は上層、下層	
底質	【現地観測（目視観察等）】 泥の外観、泥色、泥温、臭気、外観、混入物の有無	6地点（図3-1参照） （St. 5, St. 10, St. 12, St. 15, St. 18, St. ①）	—	4回/年 （四季）
	【室内分析】 6項目（粒度組成、COD、強熱減量、硫化物、T-N、T-P）		海底表層	
底生生物	マクロベントス（種別個体数、湿重量）	6地点（図3-1参照） （St. 5, St. 10, St. 12, St. 15, St. 18, St. ①）	海底表層	4回/年 （四季）
暗環境	【現地観測（機器観測）】 7項目（水温、塩分、透明度、pH、濁度、DO、クロロフィルa）	3地点（図3-1参照） （St. d1, St. d2, St. d3）	鉛直測定 （表層から1m間隔で海底上1mまで） ※透明度を除く	4回/年 （四季）
	【室内分析】 11項目（pH、DO、COD、T-N、T-P、SS、VSS、クロロフィルa、塩分、n-ヘキサン抽出物質、全亜鉛）		3層 ・上層：海面下0.5m ・中層：全水深の1/2 ・下層：海底上1m	
	【現地観測（目視観察等）】 泥の外観、泥色、泥温、臭気、外観、混入物の有無		—	
付着生物	【室内分析】 6項目（粒度組成、COD、強熱減量、硫化物、T-N、T-P）	3地点（図3-1参照） （St. d1, St. d2, St. d3）	栈橋構造部杭直下の海底表層	4回/年 （四季）
	【写真・ビデオ撮影】 生息・生育状況（杭周辺海底面の状況把握を含む）		3層 ・上層：海面下0.5m ・中層：全水深の1/2 ・下層：海底上1m	
	【目視確認】 堆積状況		栈橋構造部杭直下	

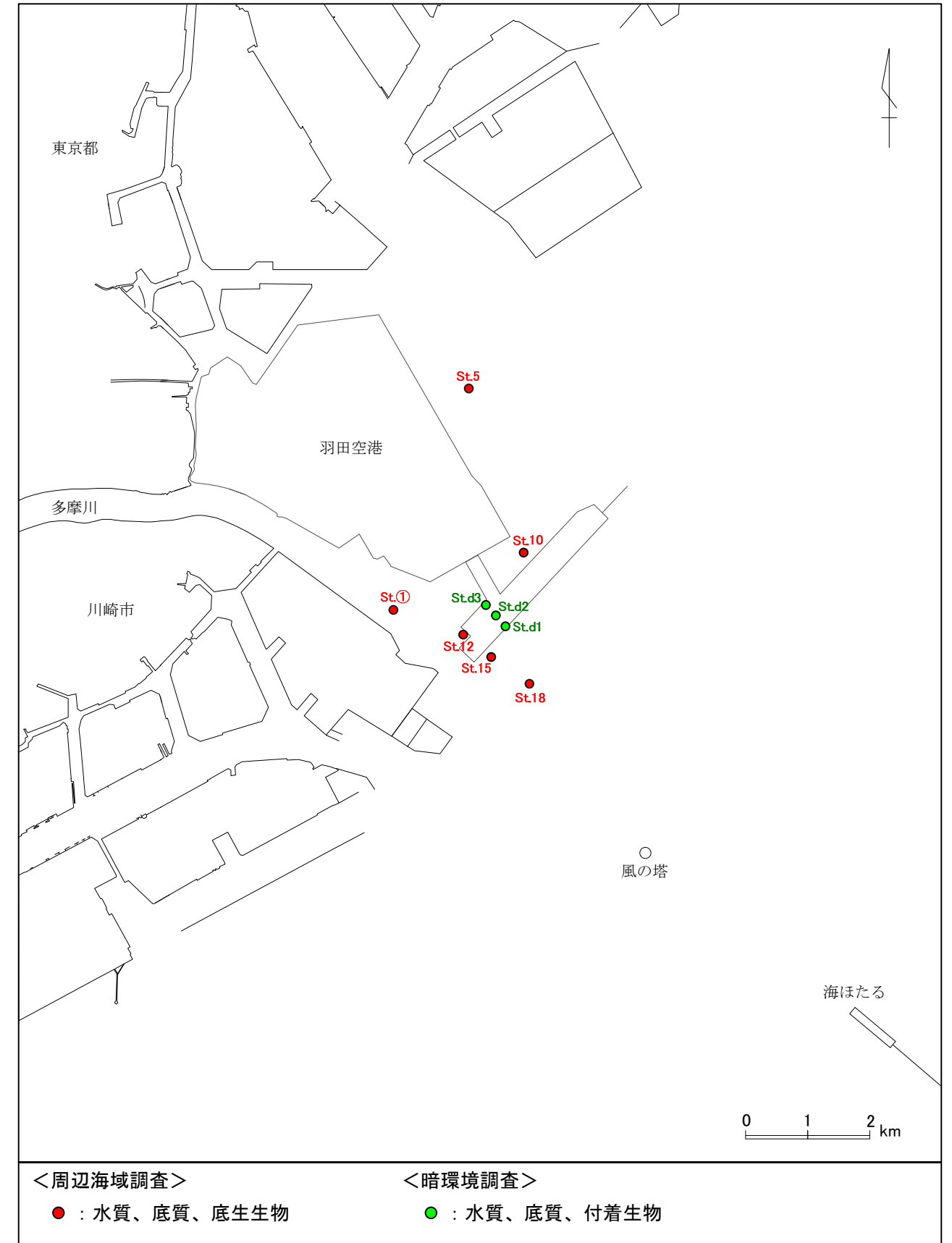


図 3-1 D滑走路周辺海域環境調査地点（案）

